



久慈農業改良普及センターだより

普及センター情報 258 号
令和 3 年 6 月 25 日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-53-4989
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-66-9684
FAX：0194-53-5009

～ 掲 載 内 容 ～

ページ

○普及現地情報

・・・ 1

「産直販売力強化への第一歩！

～産直の商品充実等に向けて野菜栽培研修会を開催～」

「第 1 回ヤマブドウ栽培技術研修会を開催しました！」

「ほうれんそう若手生産者研修会を開催しました！」

「収穫が楽しみ！～久慈湊小学校で農業体験～」

○農作業中の熱中症対策チェック

別 添

暑さに慣れていない時期の高温に注意！

日常の健康管理から徹底し、熱中症予防を行いましょう！

～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【5月分の掲載記事】

○産地紹介：《一関》産地情報 経営理念に基づく経営計画立案や計画達成に向けた管理手法を習得「農業経営の夢実現応援セミナー」

○人物紹介：【盛岡】「トライし続けて、自分の農業経営を目指す」

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターfacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>



普及現地情報
令和3年5月27日
久慈農業改良普及センター
記述者 小原幸

産直販売力強化への第一歩！ ～産直の商品充実等に向けて野菜栽培研修会を開催～

産直販売力強化のため、産直の商品充実と農薬適正使用推進を目的に、久慈地域産直連絡協議会では、「野菜栽培研修会」を5月24日に開催しました。

研修会は、「野菜の栽培管理」と「農薬の適正使用」等をテーマに普及センター職員が講師を務め、産直組合員12名の参加がありました。

「野菜の栽培管理」では白菜、にんじん、きゅうりについて、栽培方法や病害虫対策、産直向けの品種紹介などを行いました。「農薬の適正使用」等では、農薬の適正使用と生産履歴の記帳、種苗法改正に係る注意を呼びかけました。

参加者からは、「具体的な病害虫対策を知ることができて良かった」「学んだ作物の作付けを考えたい」など、産直で販売する商品の充実について前向きな感想が聞かれました。

野菜栽培研修会は、今年度あと3回の開催を計画おり、普及センターでは、産直連絡協議会と連携し、産直販売力強化に向けた支援を行っていきます。



野菜の栽培管理について研修の様子

普及現地情報
令和3年6月4日
久慈農業改良普及センター
記述者 菅野 千聖

第1回ヤマブドウ栽培技術研修会を開催しました！

ヤマブドウ栽培技術の向上や会員相互の交流促進を目的に、久慈地方ヤマブドウ振興協議会が、第1回ヤマブドウ栽培技術研修会を5月25日に開催し、会員や新規就農希望者、関係機関の担当者など13名が参加しました。

研修会では、普及センターが講師となり、令和3年の気象経過と生育状況、今後の栽培管理の注意点や病害虫の発生状況と防除について説明しました。

その後、圃場内を移動して一本一本の樹の生育を確認しながら、情報交換が行われました。情報交換の話題は、花房の多少に応じた今後の管理のポイント、病害虫被害の見分け方、新規優良系統である「佐藤系」の特性などで盛り上がり、省力化に向けた1段仕立て栽培の方法など、新たな技術についても意見交換がなされました。

令和3年度の研修会は、あと3回の開催を計画しており、普及センターでは適期管理や病害虫防除の指導、新規優良系統や、省力化に向けた栽培技術の情報提供等を行っていきます。



実際に圃場を見ながら情報交換する会員

普及現地情報
令和3年6月14日
久慈農業改良普及センター
記述者 佐々木 美苗

ほうれんそう若手生産者研修会を開催しました！

ほうれんそうの若手生産者の栽培技術向上を目的に、久慈地方農業農村活性化推進協議会が「久慈地域ほうれんそう若手生産者研修会」を5月27日に開催し、7名がかん水技術などについて学びました。

研修会では、管内で高い収量を上げている先輩農業者2名の圃場を訪問し、それぞれの圃場で栽培技術について説明を受けました。

参加者からは、「かん水時に水圧が足りずに困っていたが、水圧を高めるためのバルブの存在を知り、とても参考になった」、「深耕がほうれんそうの生育に良い影響を与えることを初めて知った」、「かん水設備のメンテナンス方法がとても参考になった」等の感想が聞かれ、栽培技術の改良に向けた意欲が伺われました。

第2回の研修会は、8月下旬に開催を計画しており、今回研修のアンケート結果を踏まえ、病害虫や防除方法に関する講義や、情報交換を行うこととしています。



圃場の土に触れながら情報交換する若手生産者

普及現地情報
令和3年6月17日
久慈農業改良普及センター
記述者 小原幸

収穫が楽しみ！～久慈湊小学校で農業体験～

農作物の栽培を通じて土に親しみ収穫の喜びを得ることで地域の子どもたちの健全育成を図るため、久慈地区少年警察ボランティア協会が、久慈湊小学校にて6月7日に全校児童145名を対象に野菜の植え付けなど農作業体験を行いました。

講師は地域の農家が務め、普及センターと共に枝豆やじゃがいも、ズッキーニなど全9品目の定植方法などを指導しました。

久慈湊小学校の児童は、1学年毎に2種類の作物を選んで定植しました。講師から「枝豆やズッキーニの苗を植えた後は水をたっぷりかけてください」などのアドバイスを受け、児童は丁寧に作業し、植え付けを完了しました。

児童からは、「定植の仕方を初めて教わって勉強になった。大事に育てていきたい」といった感想がありました。

今後は、水やりなど日々の管理は児童が行い、定期的に農家の方から指導を受け、収穫まで管理していきます。美味しい野菜ができるよう普及センターも応援していきます。



講師から、定植方法について指導を受ける児童